

能代山本だより

第31号（観光振興課発行第7号）

こんにちは。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

アカシヤの花の香りが広がるこの季節、白神山地へのトレッキングなどの問い合わせも増えてきました。今年は何のくらいの方にいらっやっていただけなのでしょうね。

先日（6/6）、能代では毎年恒例の日吉神社の中の申祭「嫁見まつり」が行われました。今年から昔の花嫁道中を柳町でも再現しました。

参加者もいつもより多く華やかだったのですが、当日あいにくの天気（雨や雷）で、柳町通りの車道の真ん中を歩く予定がアーケードの下になってしまったのが少し残念でした。

ちょうちん、長持ち、仲人、おじょ・めじょなどの隊列で、長持唄にあわせて歩く花婿花嫁の一行はなかなか素敵でした。

柳町商店街の協力によって再現できたのですが、来年もという声も聞かれています。

かなり先の早い話ですが、来年の中の申は5月19日です。今からご予約に入れませんか???

今月号が大変遅くなりまして申し訳ありません。

情報 5/3～6/10まで

イベント

能代カップ、ダマッサ優勝

第20回能代カップ高校選抜バスケットボール大会（能代市・能代市山本郡バスケットボール協会主催5/3～5）は、能代工が通算3勝1敗で昨年に続き2位に終わり、ダマッサが全勝優勝しました。

能代カップ最終日は県内外から約3,500人が会場に足を運び、ハイレベルな試合に見入りました。

年末に開催されるウィンターカップでの能代工の活躍に期待です。

映画「ブリュレ」上映会 / 能代FC

能代フィルムコミッションは、5月23日に能代市文化会館中ホールで映画「ブリュレ」（林田賢太監督）の上映会を開きました。林田監督が能代市出身の脚本家・加藤正人さん（PR大使）の日本映画学校での教え子という縁もあって、同市を舞台の一つに選び、16年夏、17年3月の2回にわたり能代でロケを行い、落合浜や小友沼、市内のパン屋（エーワン・ベーカリー）などでカメラを回しました。

雪景色の小友沼をバックに主人公2人が心を通わせるシーンなど、同市の風景も随所で見られ、訪れた100人余りの市民は、スクリーンに映し出される切ないストーリーを堪能しました。

懐石で能代の「旬」堪能 食彩人

能代観光協会主催の食彩人事業「『彩り懐石』を楽しむ会」が5月30日、地元の旬の食材を使った懐石料理を心ゆくまで堪能しました。地元素材にこだわった創作料理を提供するパーティー形式の催しは今回が最後でしたが、『彩り懐石』は、地元の旬の素材を和洋中織り交ぜた料理に仕上げ提供し、「懐石で流れるように春を味わってもらおう」(食彩人推進委員会)というコンセプトでプロの部の料理人たち7人が腕を振りました。

今後の活動として7月頃にバーベキュー大会、10月頃に能代なべっこ遠足、国体でのPRを予定しています。

迫力の音色 港に響くノ太鼓フェス

第5回太鼓フェスティバルinのしろは6月3日、能代港のはまなす展望台前で開催され、潮風そよぐ快晴の中、能代山本内外の太鼓愛好14団体が出演し、威勢のよい掛け声と力強い音色を「ドーン！」と響かせ、大勢の来場者を楽しませました。

また、能代風の風上げ実演やフリーマーケットなども行われ、港ににぎわいを創出しました。

日吉神社で嫁見まつり

能代市御指南町の日吉神社で6月6日夕、初嫁が幸福を願う「嫁見まつり」が行われ、あてやかな花嫁衣装を身にまとった女性18人が雨に濡れた参道を静々と歩み、大勢の見物人を魅了しました。嫁見まつりは、同神社の祭神がまつられたことを祝う「中の申(なかのさる)祭」の宵祭りに毎年実施しており、良縁に感謝し、一家の幸せを願って参拝する新妻の姿を一般の参拝客もめでるため「嫁見」の名がついたとされ、全国的に珍しい風習として知られています。今年は能代山本をはじめ、男鹿市や秋田市などの新妻や、幸せな結婚を願う“花嫁候補”を合わせ18人が参加しました。

花嫁道中、あてやかにノ能代市柳町

能代市の柳町通りで6月6日、昔ながらの「花嫁道中」が約20年ぶりに行われ、ちょうちんや「おじょめじょ」役の子どもらに先導された新郎新婦をはじめ、日吉神社の嫁見まつりで参拝を終えた新妻らがアーケードを練り歩き、華やかな花嫁姿を披露しました。厳粛な雰囲気の中で結婚式も行い、集まった大勢の人々を魅了したほか、写真撮影タイムやテント村もあり、雨の商店街はにぎわいました。

食

庭先でゼンマイ干し 山菜採り本格化

5/15北羽記事

能代山本地方ではゼンマイやワラビなどの山菜採りが始まり、民家の庭先ではゼンマイを天日で干すこの時期ならではの光景が広がっています。ブルーシートの上に連休中に採ったというゼンマイがずらり。これからだんだん太いゼンマイが出てきます。

「喜久水」(能代)が金賞ノ新酒鑑評会

酒類総合研究所主催の全国新酒鑑評会(5月21日)で能代市の「喜久水」が金賞、八峰町の「白瀑」が入賞しました。全国からの出品数は981点で、秋田県からは33点。484点が入賞し、金賞には252点選ばれています。県内での金賞は9銘柄です。

喜久水金賞受賞：大吟醸能代 比羅夫 720ml 3,150円

喜久水酒造 (電話)0185-52-2271 (fax)0185-54-1553

ジュンサイ株主募集 三種町の笹村さん

三種町でジュンサイの栽培・加工を手がける笹村敬一さん（53）＝笹村食品代表＝は、珍しいジュンサイ株主（オーナー）の募集を始めました。農家の高齢化に伴い少なくなっている採り手の養成を兼ねたもので、採取したジュンサイの半分を持ち帰ることができるほか、希望者には買い取りも行います。笹村さんは「若い人たちも、気軽に楽しみながら摘み取りを体験してほしい」と呼び掛けています。

笹村敬一さん自宅 0085-83-2742

オーナーになってみませんか。

「北限の茶」再生に乗り出す / 桧山

能代市桧山地区が今年度、自立的な地域づくりを支援する国の地域資源活用構想策定等支援調査の対象地に選ばれ、生産が減少し続けている桧山茶の保存、将来的な地域ブランド化を探ることが事業のテーマで、栽培専門スタッフの育成などに取り組み、去年の倍近い収量を目指すほか、来訪者への桧山茶と茶ようかんの提供など、PR活動も行います。

6月15日に新茶摘みが行われます。

観光

ジュンサイ採り始まる / 山本地区

5/13北羽記事

三種町山本地区で、特産のジュンサイの摘み取りが始まりました。今年は春になっても低温の日が多く、まだ収穫量は少ないものの、女性たちが小舟に乗って手摘みする姿は、早くも初夏の気配を感じさせています。

6/6.7のプレスツアーで体験してもらったところ大好評でした。

一度やるとやみつきになります。その後のじゅんさい料理も美味しいですよ。

「森のえき」5月27日オープン 藤里商工会

藤里町商工会で5月27日、観光案内所と特産品販売所を兼ねた「白神山地 森のえき」をオープンしました。白神山地を核にしたエコツーリズムの拠点にしたい考えです。

8月3日 畠町通りで運行 / こども七夕

こども七夕実行委員会（青年クラブのしる）は、運行日を従来通り8月3日とすることを確認し、開催コースは、大栄百貨店交差点での折り返し、畠町通り北端については、秋北バスステーション交差点まで延長することを決めました。

プレスツアー一行、能代山本に

能代観光協会主催のプレスツアーは6月6日から始まり、マスコミ関係者ら3人が来能し、1泊2日の日程で能代山本の特色ある祭事や歴史・文化、豊かな自然、農業・食品関連の体験メニューを視察しました。7日は風の松原散策のほか、鶴形の「おしゃべりroom watana be」でそば打ちやだまこ鍋、山菜収穫、三種町でジュンサイの摘み取り体験をしてもらいました。

自然

松くい虫対策伐倒駆除1140立方m / 能代

能代市は今年度、松くい虫被害拡大阻止の対策として3700万円余を当初予算で確保し、被害木調査や伐倒駆除、薬剤散布、民家の庭木の搬出支援を実施します。春季の調査74.76ヘクタールは5月10日までに終了し、被害木や支障木を伐倒駆除する計画で、適期の駆除と予防対策の実施で被害のまん延、北上を食い止めたい考えです。

松原保全に市民の力を集結

風の松原ボランティア協議会主催で「風の松原を守る市民ボランティア大会」が5月6日、能代市の風の松原で開かれ、能代山本内外から約850人が参加し、松原内の各所に分かれ、松くい虫被害の温床となる松の枯れ枝などを人海戦術で拾い集めました。風がやや強い中、住民を飛砂から守る松原の価値を改めて体感、松くい虫の被害拡大防止を目指し汗を流しました。

私たちのまちを長い間守ってくれている松原です。大切にします。

中川原自治会、市に八重桜40本贈る

能代市の中川原地区連合自治会は5月10日、桧山川運河沿いの環境美化に役立ててもらおうと、市にヤエザクラの若木40本を市に寄贈しました。

今回、市に寄贈したヤエザクラは昨年度、秋木製鋼が創立70周年記念事業として、同自治会に贈ったもので、元町の同運河沿いに40本を植樹し、昨年度の植樹分と合わせて100本余となりました。

桜の花が咲く時期が楽しみです。

アユのそ上を確認/国交省能代

国土交通省能代河川国道事務所は5月18日、米代川河口部でアユのそ上を確認しました。(昨年より2日遅い。)同省のホームページ「アユのそ上マップ」に掲載されています。

7月1日の鮎釣り解禁が楽しみです。

淡紫のフジの花が見ごろ / 能代市落合

5/29北羽記事

能代市落合の通称「フジ公園」では、淡い紫に染まった花がいっぱいに垂れ下がり、人々の目を楽しませています。

能代エナジウムでヒスイカズラ開花

能代市大森山の能代エナジウムパーク熱帯植物園内で、フィリピン原産のヒスイカズラが開花し、来園者の注目を集めています。7月下旬まで楽しめます。ヒスイカズラは、フィリピン原産の豆科のつる性植物で、名前の通り、宝石のひすいのように鮮やかな青緑色の花を房状に咲かせるのが特徴です。

来能の際はぜひ、ご覧下さい。

県内外からファン/サクラマス釣り解禁

県内のサクラマス釣りが6月1日解禁され、好ポイントに恵まれ、全国的にも知られている能代市二ツ井町の米代川には県内外から大勢の釣り人が繰り出し、サクラマスの強い引きを楽しんでいます。解禁日の1日は夜明けとともに、釣り人が大物を狙って川に入り、二ツ井町荷上場地内の米代川と藤琴川の合流地点付近などは“釣り人ラッシュ”で、堤防などには県外ナンバーの車がずらりと並びました。

赤潮が大規模発生 / 八森・岩館海岸

6/3北羽記事

八峰町八森、岩館などの県北部沿岸に赤潮が発生しています。帯状になって磯を赤く染めており、住民らは「これほど大規模な赤潮は初めて」と驚いています。県漁協北部総括支所によると、赤潮は男鹿半島以北の日本海で発生し、先月下旬に八森沖に流れてきたことで、海岸に沿って濃く海面を覆い、沖に行くほど薄くなっています。南北に延び、長さ数キロ、幅50メートル以上。磯浜の入り江は一時、真っ赤に染まっていました。

行政関係

バイオタウン 年度内認定目指す / 能代

能代市は今年度、バイオマスタウン構想を策定します。生ごみや下水汚泥、稲わら、林地残材など「ごみ」として廃棄されていたり、利用されていないバイオ資源に光を当て、堆肥化やエネルギー化といった有効活用の方策を探り、資源が循環する地域づくり、地域活性化を狙いとします。5月11日に策定委員会初会合を開き、11月ごろ素案を取りまとめ、年度内の国の認定・公表を目指すことを申し合わせました。

広告掲載、思惑はずれ 広報のしろ

能代市が自主財源確保策として、市広報紙「広報のしろ」から広告収入を得ようと、広告代理店に相応する広告掲載業務の委託先を募りましたが、応募事業者が1件もなく、入札を中止しました。行財政改革の一環で取り組んだ新施策でしたが、仕切り直しすることになりました。

能代の広報に広告掲載してみませんか。ご検討ください。(一部対象外があります。)

国交省庁舎跡地を取得 河畔公園事業

能代市は今年度、能代河畔公園整備事業に当初予算で9,300万円を措置し、国土交通省能代河川国道事務所の旧庁舎跡地取得や芝生広場への整備などを行います。旧市が「100年の大計」として昭和54年度に着工した事業で、昨年度内に事業期間を24年度まで6年間延長することが決まっており、当面は事業認可区域(10・5ヘクタール)の整備を進めます。

中心商店街に市役所窓口 / 6月9日オープン

能代市の市民サービスセンターが9日、市柳町のジャスコ能代店内にオープンしました。住民票や戸籍関係などの諸証明の発行、市税・使用料の納付を受け付ける窓口で、民間商業施設に市の出先機関が入居するのは初めてです。土・日曜日や祝日、夜間も対応し、買い物ついでや、仕事帰りの利用などが見込まれ、中心市街地の利便性向上による交流人口の増加のほか、市役所駐車場の慢性的混雑の緩和も期待しています。

議会関係

政務調査費使用は287万 / 能代市議会

能代市議会は、18年度政務調査費の用途状況を公表し、収支報告書によると、申請額308万円に対して実績は287万6,005円。まちづくりや行財政改革、子育て支援策、地域協議会の活動状況などをテーマにした先進地視察の旅費や資料購入費に活用されました。18年度は4月23日に議員選挙が行われたため、11カ月分が交付され、28人全員が満額を申請し、申請総額は308万円。実績総額は287万6,005円。28人のうち申請額と同額の実績額(11万円)を報告したのは17人。11人は1390~8万1650円の残額があり、合計20万3995円を市に返還しました。

教育・文化関係

課外活動に囲碁 日本棋院支部が計画

日本棋院能代山本支部(金谷晴隆支部長)は、能代市内の小学校の課外活動などに囲碁を取り入れてもらおうと、指導員の派遣態勢づくりに着手しました。学校の課外授業に取り入れるに当たって「誰が指導するのか」が第一の問題であることから、指導者派遣の窓口となる実行委員会の立ち上げを計画しています。日本棋院は、囲碁が頭脳の活性化や、対局を通して思いやりの気持ちを育てることに役立つものと考え、小学校教育に取り入れてもらうための活動を全国的に展開しています。

「木都」語り継ぐ写真集発刊 南さん

能代市花園町の南利夫さん（88）の写真集「秋田杉と職人たち」が、4日発売されました。昭和30年代から撮りためた写真の中から約300点を選んでまとめたもので、天然秋田杉の伐採から筏（いかだ）流し、杉加工職人の技など、「木都能代」の変遷とそれを支えた山の様子が分かります。南さんは「写真集が『能代は木都』と語り継がれる道しるべになればうれしい」と話しています。

藤田さんが日本一 ハーモニカコンテ

全国各地から演奏者が集うF・I・H JAPAN第27回ハーモニカコンテスト決勝ライブコンサートが6月3日、東京都内で開かれ、能代市日和山下の会社員、藤田貴子さん（30）が複音ソロ部門で2度目の優勝を果たしました。

閉校式日程決まる / ニツ井地区、日影小

今年度末で閉校する能代市日影小とニツ井地区4小学校の閉校式典の日程が決まりました。日影小は、11月4日、ニツ井地区はニツ井小の同10日を皮切りに富根小が同11日、切石小が同24日、仁鮎小が同25日。式典後は各校によるアトラクションなどが計画されています。

スポーツ・国体関係

柔道の今立さん（能代）、6段に

能代市の能代弘道館今立道場主、今立篤子さん（57）＝同市日吉町＝が、東京都文京区の講道館で開かれた昇段試験で6段を取得しました。現在、女子6段は国内に10人余りしかいない上、秋田県では今立さんただ1人で、県内女子柔道家の最高段です。今立さんは「家族や周りの先生のおかげ」と静かに喜び、国体で行う公開演技に向けて気持ちも新たに意気込んでいます。

能代球場愛称、山田久志球場に / 能代

能代市教育委員会は、能代市出身の元プロ野球選手・監督の山田久志氏にちなみ、能代球場の愛称を「山田久志球場（サブマリスタジアム）」とする方向で準備を具体化する方針で、愛称は関係団体などと協議の上で正式決定しますが、球場に掲げる愛称のプレートや山田氏が寄贈・展示の意向を示しているトロフィーの展示スペース設置など関係予算を6月補正に計上し、国体開幕前の9月中には記念セレモニーを実施したい考えです。

体育施設を無料提供 / 藤里町

今秋、本県で開催される秋田わか杉国体の盛り上げに一役買おうと、藤里町は大会期間中、県北地区が会場となる競技に出場する全国の選手らに体育館や野球場などの練習会場を無料で提供します。同時に「全国に藤里町の良さを知ってもらおう絶好の機会」とし、世界自然遺産の白神山地はじめ、観光・宿泊施設や地元特産品などのPR活動も幅広く展開、国体に合わせた観光の相乗効果にも期待しています。

能代市役所に「歓迎」の看板設置

能代市役所本庁舎入り口に、秋田わか杉国体・秋田わか杉大会の看板が設置されました。キャッチフレーズは、これまで使われていた「みんなで成功させよう」から「歓迎」に変わり、46年ぶりに巡ってくる国民スポーツの祭典が近づいていることを実感させています。

その他

県商議所連合会、「イオン反対」を直訴

郊外型大型店の県内進出に歯止めを掛けようと、県商工会議所連合会は5月11日、寺田知事に対して要望書を提出しました。能代市内に計画されているイオン出店に反対する能代商工会議所の山木雄三会頭も同席し、地元の事情を考慮した県の対応を強く求めました。この日は、渡辺靖彦会長（秋田商工会議所会頭）、山木会頭、湯沢商工会議所の高久臣一会頭らが県庁に足を運び、要望書を手渡しました。

署名、目標大幅に上回る イオン問題

能代まちづくり市民会議は5月16日、斉藤能代市長にイオン問題のさらなる説明を求めて4月中旬から実施した「説明会開催要望の街頭・組織署名運動」の結果をまとめました。一部未集計分を残しているものの16日現在で5,332人に達し、目標に設定した2千人を大きく上回る結果となっています。

炭の商品開発に成功 常盤の「炭焼き隊」

地域の里山の木で炭を作って販売し、活性化を目指す能代市常盤の「炭焼き隊」が今春、靴と花瓶の水の消臭、インテリアを兼ねる室内の湿気取り用の三つの炭グッズを商品化しました。新商品開発は、主力商品として販売中のパーベキュー用の炭が安い外国産の炭に押されて苦戦している状況の下、炭の販売増を狙うもので、今後も開発を進め、販路を広げていく考えです。

前年対比で801人減 / 能代市の人口

能代市の4月末現在の人口と世帯数は、人口は6万3149人、世帯数は2万4657世帯です。年間で最も異動が多い年度末・始めの転出入もほぼ終わったとみられますが、人口は前月比で149人減少し、前年度同期比で801人の大幅減と厳しい状態です。世帯数は前月比で37増、前年度同期比で109増でした。

保養センター・のしろを年度内売却へ

全国約300カ所の年金福祉施設の売却・譲渡を進めている独立行政法人「年金・健康保険福祉施設整理機構」の今年度売却対象施設に、能代市落合の国民年金健康保養センターのしろが含まれていることが明らかになりました。能代市が要望してきた秋田わか杉国体・大会終了までは現状の運営形態が維持される見通しですが、一般競争入札による売却となるため、温泉・宿泊施設のまま存続するかどうかは買い手次第となります。

PR 大使から

今野輝夫さんからののお知らせです。

たぶろう展

たぶろう：TABLEAU（伝語）絵画の意

期間 6月13日（水）～25日（月）

場所 東京国立新美術館

東京国立心美術館は今年OPENしたばかりです。

最寄り駅は地下鉄千代田線乃木坂か日比谷線六本木駅です。

今野さんが「たぶろう美術協会」の会員で、6月16・18・20・22・23・25日は会場にいらっしゃいます。

受付で今野さんと呼んでくだされば無料にしていただけるそうですので、ぜひ、今野さんがいる日に見に行ってください。

今野さんの今年のテーマは“晩秋彩色（秋田二ツ井）”（きみまち阪公園のある風景）約50号サイズ

菊池正己さんからののお知らせです。

前回の能代山本だよりでもお知らせいたしましたが、メールアドレスを掲載し忘れましたので、追加いたしました。

PR大使の皆さんと情報交換するためのネットワークの構築を考えているので、ご興味がある方は連絡をいただきたいとのことでした。

菊池正己 ビデオ・オンライン・ワークショップ

<http://www.onlineworkshop.net/>

千葉市稲毛区宮野木町1456-5

TEL (043) 251-0027

FAX (043) 256-5524

Mobile: 090-96-86-090-4

メールアドレス: masami@onlineworkshop.net

お知らせ

能代観光協会ブログ「能代でらっと情報」

能代山本地域の最新的话题を毎日、ブログで発信しています。

お近くのパソコンでぜひご覧ください。

能代でらっと情報URL http://blog.livedoor.jp/noshiro_kanko/

能代PR大使のみなさんの近況や身近な話題、気が付いたことなど遠慮なくお知らせください。

ファクシミリ	0185-89-1776
電話番号	0185-89-2179
Eメール	kankou@city.noshiro.akita.jp